

病棟薬剤師とセラピスト間の連携強化に向けた取り組みと 処方適正化の検討

西塚 亨、酒井照美、小土井亮介、濱崎厚志、瀬戸口由梨、
島谷康司、道原明宏

日本病院薬剤師会雑誌, 57(10), 1073-1079 (2021).

Efforts to strengthen cooperation between ward pharmacists and therapists and examination of prescription optimization

Toru Nishitsuka*, Terumi Sakai*, Ryosuke Kodoi*, Atsushi Hamasaki**,
Yuri Setoguchi**, Kouji Shimatani***, and Akihiro Michihara

抄録 回復期リハビリテーション病棟（回復期リハ病棟）において、多職種協働の患者ケアは重要である。近年、効率の良いリハビリテーション（リハ）を実践するために、リハ薬剤という新しい言葉も生まれており、チーム医療に対する薬剤師介入の意義は重要度を増している。リハ薬剤の概念はリハの効果を最大限に発揮するための薬物治療であり、国際生活機能分類（ICF）に基づく全人的評価による介入を原則としている。今回、回復期リハ病棟において病棟薬剤師とセラピスト間の連携強化を目的に専用の連携ツール（リハ薬剤手帳と質問・相談用紙）を作成し、処方の適正化に取り組んだ。その結果、セラピストとの連携強化は薬剤師の処方介入に有効であり、処方の適正化にも効果的であることが示唆された。また、アンケート調査の結果、リハ薬剤手帳はリハビリ業務の向上に活用されていることが示唆された。

* 福山記念病院 薬剤科

Department of Pharmacy, Fukuyama Memorial Hospital

** 福山記念病院リハビリテーション科

Department of Rehabilitation, Fukuyama Memorial Hospital

*** 県立広島大学 理学療法学科

Department of Physical Therapy, Prefectural University of Hiroshima